作者とオリキャラのバトルロワイヤル

疾風の音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
作者とオリキャラのバトルロワイヤル

【Ｎコード】
Ｎ８５４８Ｚ

【作者名】
疾風の音

【あらすじ】
とある日、４０人の男女・・・。其所に突然、殺し合い（バトルロワイヤル）に巻き込まれた・・・。果たして、４０人に降りかかる悲劇は！＊前書きを出てきた登場人物を、後書きに状態を書いていきます。番外編も用意してあります。

ゲームスタート（前書き）

スマッシュさんの視点にしてみました。

ゲームスタート

ふと気付いたら、俺は、いや俺達は薄暗い会場に居た。

折原　空
「大丈夫ですか？」

スマッシュ
「ああ・・・だが・・・ここは何処だ・・・？」

しら
「薄暗い所だな・・・」

するとスポットライトが当てられ、１人の男が現れた。

疾風の音
「皆さんこんばんは、私は主催者の疾風の音と言います」

秋雨　涙
「主催者？」

疾風の音
「そうです」

男、疾風の音はニヤリとした顔をした。

疾風の音
「この会場内に居る皆さんには、これより最後の1人になるまで・・・」

疾風の音
「殺し合いをしてもらいます」

辺りがざわつき出してきた。
それもそうだ、いきなり殺し合えと言ったのだから。

スマッシュ
「まっ、待てよ！」

俺は勿論、男に突っ掛かった。

スマッシュ

「いきなり殺し合いをしてもらうってどう言う事だ！」

疾風の音
「それは私からは言えません」

阪神虎之介
「言えないだと・・・！」

疾風の音
「ええ、私から言えることは殺し合うルールを言うだけです。質問は一切お答えできません」

霊宮空刀
「貴様・・・そんな事を許してたまるか！」

パァーン・・・

いきなり霊宮空刀の頬に血が流れる・・・。

見てみれば、疾風の音が銃を放っていた。

疾風の音
「貴方達の私語や質問等は一切お答えできませんと言った筈です」

何も躊躇いなく人に向けて銃を放った・・・。

人として最低の行動を取りやがった・・・。

スマッシュ
「人間の心が無いのか・・・！」
疾風の音
「皆さん静かになりましたね？それでは、ルールを説明しましょう。」

ルール

最後の１人となるまで時間無制限に殺し合いを行う。
場所は５ｋｍ×５ｋｍの５００ｍ毎で１つのエリアである。
放送は６時間毎に行い、放送と同時に禁止エリアが３つ指定される。
時間内に禁止エリアを抜け出さなければ、装着されている首輪が発動される。
２４時間以内に１人を殺さなければ、全員の首輪が発動される。
支給品はランダムで送られる為、何のアイテムが手に入るか分からない。

疾風の音
「既に支給品は渡してありますので・・・それでは・・・これより、バトルロワイヤルの開幕を宣言します」

すると、いきなり大きな魔法陣が現れて、俺達は消えていった・・・。

疾風の音
「これで良いのですか？ゼロ」

ゼロと言われた謎の男・・・。

ゼロ
「お疲れ、疾音（しおん）」

疾音
「あ~あ・・・変装するの疲れたわ・・・これで良いのよね」

疾風の音は疾音と呼ばれた女が変装していた。

ゼロ
「ああ・・・これで、あの計画も・・・」

ゼロの言う計画とは！そして魔法陣によって消えていった者達の運命は！

参加者リスト（前書き）

抜けていないか確認してください。

参加者リスト

参加者リスト　○は生存　●は死亡

男

○アクロス／○泉涼／○英霊ユウジ／○カイ・Ｒ・銃王／○熊谷雅之／○郡司侑輝／●榊原直久／○死神魔姫／○疾風の音／○しら／○スマッシュ／○スライムマン／○デビル（黒井卓真）／○トライス・ドレッド／○ハデス／○パルポン／○阪神虎之介／○ピッキー／○星空刃夜斗／●棒人間／○横浜学園都市部／○ｒｙｏｕｋｉ／○ルファイト／○霊宮空刀

女

○秋雨涙／●エンジェル（浅間りな）／○折原空／○川崎貴子／○紅真朱璃／○黒龍美牙／○ジョディ・ブローリー／○セーラ／○テルカ／○ディスペイト／○紀葉／○墓守レイカ／○瑞希優羅／○ミル／○宮薙煉華／○八木紀葉

残り　３７／４０

シスターとパーカー青年（前書き）

登場人物

セーラ、霊宮空刀

シスターとパーカー青年

セーラ
「ううん・・・はっ！ここは・・・？」

セーラが目を覚ました所は、町エリアの中だった。

セーラ
「聖職者の私を殺し合いに参加させるなんて・・・遺憾よ！」

そう、彼女は聖職者、所謂シスターなのだ。神に仕える者がこのような場所に置かれてしまった。

セーラ
「・・・取り敢えず何か入っているのか、見ないといけないわ」

セーラが支給品が何か見る為に、バックの中を調べようした時・・・。

？？？

「おい」

セーラ
「ひっ！な・・・何なの！？」

そこに現れた男は眼鏡をしていて青のパーカーをしていた。

セーラはその男を見た瞬間、身体が震えていた。

セーラ
「い・・・いや・・・やめて・・・殺さないで・・・」

？？？
「待て、俺は・・・」

セーラ
「やだ・・・まだ死にたくない・・・死にたく・・・」

？？？
「だから俺は殺し合いに乗っていない！」

セーラ
「え？本当に？」

男は事情を説明した。

セーラ
「じゃあ貴方も主催者を倒す為に動いているのね」

霊宮空刀
「ああ、俺は霊宮空刀、こんな殺し合いは乗っていない。主催者である疾風の音を倒す」

セーラ
「でも、最後の１人になるまで殺し合いは続くのよ！」

霊宮空刀
「参加者名簿は見ていないのか？」

セーラ
「え？今から見る予定なんだけど・・・」

霊宮空刀
「そうか、なら支給品も見ないといけないな」

セーラはバックを開けて支給品が何か見てみた。

霊宮空刀
「何か見つかったか？」

セーラ
「いいえ、傘は入ってたけど・・・」

セーラが持っているのは桃色の傘、とても綺麗だが武器にはなれない。

セーラ
「霊宮は何かあったの？」

霊宮空刀
「いや、武器になりそうなのは無かったな。次は参加者名簿だ」

2人は参加者名簿を見た。

セーラ
「あっ！名前が書かれてるわ！」

霊宮空刀
「主催者も参加者名簿に入っていた。つまり、疾風の音を倒す事が出来れば、この殺し合いを止める事が出来るかも知れないからな」

セーラ
「なら、私も手伝うわ！」

霊宮空刀
「大丈夫なのか？」

セーラ
「私を誰だと思っているの？私は主催者を止めるわ！これはリーダーである私の命令よ！」

霊宮空刀
「それは良い心掛けだが何時リーダーになったんだ？」

セーラ
「今決めたわ、さあ！リーダーの私に着いてきなさい！」

霊宮空刀
（アニメで言う涼宮ハルヒだな・・・）

2人は歩き出した、主催者を倒す為に。

しかし、2人は気付いていない、主催者は変装していた事を・・・。

更に疾風の音は何も知らないまま殺し合いの場に居ることも・・・。

シスターとパーカー青年（後書き）

現在の状態（町エリアB－3）

セーラ
状態：正常
装備：風見幽香の傘＠東方Ｐｒｏｊｅｃｔ
持っている物：バック一式
思考1：リーダーは私よ！
思考2：殺し合いを止めるため、疾風の音を倒す。
移動：町エリアB－3↓B－2
＊バックの中を見ました。

霊宮空刀
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式
思考：殺し合い打倒の為に仲間を集め、主催者を倒す
移動：町エリアB－3↓B－2
＊バックを見ましたが武器は無かった様です

＠風見幽香の傘
説明：東方Ｐｒｏｊｅｃｔに登場する風見幽香が愛用している傘、
生半可な銃弾なら防げる。

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師（前書き）

登場人物

死神魔姫、アクロス

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師

死神魔姫
「太刀じゃないのか・・・、まあ武器にはなるかな」

洞窟の中でバックを明けていた死神魔姫。彼が持っているのはダガーナイフ。

死神魔姫
「この殺し合いで1人になるまで続くのか・・・」

あの主催者は許せなかった、1人になるまで殺し合いをしてもらう事に。

しかし、24時間以内に1人でも死ななければ、参加者全員の首輪が発動される。

死神魔姫
「俺は帰りたい・・・皆の所に、その為には・・・この殺し合いに・・・乗ってやる」

死神魔姫、死神の名の元に殺し合いの場へと足を進む。

彼はもう、あの頃の様な生活は送れないのかも知れない。

それでも帰らなければならない・・・。

死神魔姫
「まずは洞窟から抜け出さないとな」

彼は名前の通り、殺し合いに乗り、死神（●●）になる。

アクロス
「あいつ・・・殺し合いに乗ったのか！？」

近くに死神魔姫が居たため、その様子を見ていたアクロス。

アクロス
「エンジェルとデビル、無事だと良いんだけどな・・・」

既に参加者名簿を見たアクロスは知り合いの安否が心配していた。

アクロス
「しかし・・・魔法が弱体化してる・・・一体何が起きているんだろうか・・・、それに・・・なんで1枚のコインが入って居るんだ・・・」

何故かバックに入って居た1枚のコイン。

勿論これでは役に立たない。

アクロス
「まあ武器があるだけましかな」

アクロスが持っているのは銃、しかもリボルバーだ。

アクロス
「・・・緊急の時に使うか・・・移動しようかな」

アクロスは移動を始めた、死神魔姫とは別の道を。

彼が見る道は、一体何が見えるのだろうか・・・。

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師（後書き）

現在の状態（洞窟エリアＤ－４）

死神魔姫
状態：正常
装備：ダガーナイフ
持っている物：バック一式
思考：帰りたいから殺し合いに乗る
移動：洞窟エリアＤ－４↓Ｃ－４

アクロス
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式、コイン@とある科学の超電磁砲、リボルバー（銃弾６／６）
思考：取り敢えず移動する
移動：洞窟エリアＤ－４↓Ｅ－４
＊能力が弱体化している事に気付きました。

@コイン
とある科学の超電磁砲に出てくる御坂美琴が持っているただのコイン

不屈の心（前書き）

登場人物

紀葉

不屈の心

紀葉
「どうしてこんな事になってるんだろう・・・」

紀葉は混乱していた。まずは普通の女の作者がこんな殺し合いに参加させられるとは思いもよらなかった。

これは現実なんだと思いたくなかった。泣きたかった、でも泣きたくなかった。

紀葉
「そうだ・・・支給品を見ないと・・・」

紀葉は支給品が何か見てみようと思った。

紀葉
「これは・・・」

紀葉が見つけたのは赤色の綺麗な玉だった。どうやら魔力があるようだ。

紀葉

「これ何だろう？」

その赤色の玉をぎゅっと握り締めたその時だった。

？？？
『Ｈｅｌｌｏ』

紀葉
「え？何処から声がするの？」

？？？
『Ｔｈｅｒｅ　ｉｓ　ｉｔ　ｉｎ　ｙｏｕｒ　ｈａｎｄ』（貴方の手の中に居ますよ）

紀葉
「手の中に？もしかして・・・この赤色の・・・貴方が？」

？？？
『Ｙｅｓ』

喋っていたのは紀葉が握りしめていた赤色の綺麗な玉だった。

紀葉
「ちょっと英語分からないから日本語表記にしてくれないかな？」

？？？

『分かりました、私はレイジングハートと言います』

紀葉
「レイジングハートって・・・リリカルなのはの・・・」

レイジングハート
『はい、そうですマスター』

赤色の玉、レイジングハートはマスターと言った。

紀葉
「ちょっと待って！私は貴方のマスターじゃないよ！？」

レイジングハート
『私のマスターはここに居ないため、私を握り締めた貴方が現在の私のマスターです』

紀葉は少しの間考えた。絶対に主催者は許さない！私はこの殺し合いの打倒する為に動く。

紀葉
「レイジングハート、私頑張るから・・・この殺し合いの打倒に協力して欲しい！だから、私に力を貸して！」

レイジングハート
『了解しました、マスター』

レイジングハートの持ち主とは全然違うけど、紀葉は決めたのだ、
絶対に諦めないと・・・。

紀葉
「不屈の心で・・・この殺し合いを打倒します・・・」↑小さい声で
紀葉の心は屈しはしない。歩き始めた紀葉は笑顔だった。

不屈の心（後書き）

現在の状態（町エリアB－1）

紀葉
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式、レイジングハート（待機モード）@魔法少女リリカルなのは
思考：不屈の心で殺し合いを打倒する
移動：町エリアB－1↓A－1

@レイジングハート
魔法少女リリカルなのはの主人公、高町なのはの持つデバイス。カードリッジは３つ入っている。

悪魔と友達に・・・（前書き）

登場人物

デビル（黒井卓真）、宮薙煉華

悪魔と友達に・・・

デビル
「あの主催者、会った時には覚えてろよ・・・」

デビルこと黒井卓真は苛立っていた。いきなり殺し合いをしろと言えばこんな所に飛ばされ、更に苛立ちは隠せずにいた。

デビル
「しかし・・・、アクロスは無事だろうな・・・」

知り合いの無事を信じつつ、彼は歩き続けた。

デビル
「あああ!!!苛立ってきた!!!」

そう言うとデビルは扉をガンッと蹴った。

???
「え!?なっ何ですか!?」

そこに居たのは1人の少女、少女は縮こまり、デビルに怯えていた。

デビル
「・・・ちっ」

デビルは少女の元から離れようと思ったが・・・。

？？？
「待ってください！」

少女が止めた。

デビル
「何だよ」

？？？
「名前を聞きたいんです！」

デビル
「なんで言わなきゃいけねえんだよ」

？？？
「あの・・・えと・・・友達が欲しいから」

デビル
「俺は馴れ合いは大嫌いだ」

？？？
「で・・・でも・・・」

デビル
「黙れ、殺すぞ」

デビルは少女に殺気を飛ばす。

？？？
「・・・」

デビル
「何も無いなら俺は行く」

？？？
「せ、せめて一緒に居てほしいんです！」

デビル
「言っただろう、俺は馴れ合いは大嫌いだ」

？？？
「ボク、怖いんです。誰かと一緒に居てほしいんです・・・馴れ合う事は考えていません」

デビル
「・・・デビル」

？？？
「え？」

デビル
「俺の名だ、デビルと呼べ」

煉華
「デビルさんですね？ボクは宮薙煉華と言います！」

悪魔の名を持つ者、黒井卓真は不思議な少女の宮薙煉華に出会う。

デビルの行動は吉と出るのか凶とでるのか・・・。

悪魔と友達に・・・（後書き）

現在の状態（町エリアE－４）

デビル
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式
思考１：馴れ合いは嫌いだが仕方がなく煉華と一緒に居る
思考２：アクロスを見つけて、共に主催者を殺す
思考３：エンジェルに関しては一旦保留
移動：町エリアE－４で待機
＊バックは見ていません。

宮薙煉華
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式
思考１：友達が欲しいな・・・。
思考２：デビルと一緒に居たい
思考３：殺し合いには乗らない
移動：町エリアE－４で待機
＊バックは見ていません。

絶望を探す者（前書き）

登場人物

棒人間、ディスペイト

絶望を探す者

棒人間
「何で殺し合いがあるんだよ！理不尽すぎるだろう！」

棒人間は恐怖心に怯えていた。それもその筈、彼は臆病者で何事が起きても逃げたり、誰かを盾にしたりと結構卑怯者でもある。

棒人間
「ううう・・・生き残りたい・・・だけど、俺みたいな奴が生き残れるのか・・・」

？？？
「見つけた」

棒人間
「え？」

ズバッ！

棒人間
「なっ！」

いきなり棒人間の身体に大量の血が吹き出した。みてみたら、白い

髪の女が黒い斧のような物で切りつけていた。

棒人間
「何なんだよ！」

ディスペイト
「キャハハハ！あたしはディスペイト、良いわね・・・貴方の絶望する顔・・・」

棒人間
「く・・・来るなあ！来るなあ！」

ディスペイト
「でももう良いや、死んじゃえ！」

ディスペイトは棒人間の首をスパッとはねた。

ディスペイト
「これ良いなあ、バルディッシュだっけ？使いやすいわ」

そう言うとディスペイトは棒人間のバックを開けて支給品を調べた。

ディスペイト
「なんだ、ただのハンドガンじゃない、まあ何とかなるかな？」

ディスペイトはハンドガンを自分のバックの中に入れた。

ディスペイト
「さあ・・・次は何処に行こうかな？」

絶望を求む者は更なる絶望を持つ者を探すため動き始める。

棒人間　死亡確認　【残り３９人】

絶望を探す者（後書き）

現在の状態（森エリアC－4）

ディスペイト
状態：正常
装備：バルディッシュ＠魔法少女リリカルなのは
持っている物：バック一式、ハンドガン（12／12）
思考1：絶望を求めて歩く
思考2：この殺し合いを楽しむ
移動：森エリアC－4↓C－5

＠バルディッシュ
魔法少女リリカルなのはのキャラの1人、フェイト・T・ハラオウンが持っているデバイス、カードリッジは3つ入っている。

共に倒す者として（前書き）

登場人物

ｒｙｏｕｋｉ、阪神虎之介

共に倒す者として

ｒｙｏｕｋｉ
「ここは宮殿みたいだな・・・」

目が覚めた場所は宮殿エリアのｒｙｏｕｋｉ。と言っても宮殿の中ではなく、宮殿の近くにある木で目が覚めた。

ｒｙｏｕｋｉ
「殺し合いか・・・僕には出来ないよなあ・・・人は殺したくない」

そう言うとｒｙｏｕｋｉはバックの中を調べ始めた。

ｒｙｏｕｋｉ
「わっ！なんだこれ！?」

出てきたのは先端が斧のような槍。

名前は戦斧『ハルバード』、斧で切ることも出来、先が槍なので突くことも出来る。

しかし、ｒｙｏｕｋｉは別の事を思っていた。

ｒｙｏｕｋｉ
「良くこんな長いもの入ったなぁ・・・」

天然なのか本気なのか・・・。

ザッザッザッ・・・。

ｒｙｏｕｋｉ
「足音が聞こえる・・・誰だ！一体誰なんだ・・・」

ｒｙｏｕｋｉは殺し合いに乗っている者なのかも知れない、なので隠れる事にした。

阪神虎之介
「はぁ・・・何でかな・・・」

ｒｙｏｕｋｉが足音が聞こえた人物は作者の阪神虎之介だった。

ｒｙｏｕｋｉは接触を試みる事にした。

ｒｙｏｕｋｉ
「話がしたいんです。良いですか？」

阪神虎之介
「わっ！吃驚しました・・・」
ｒｙｏｕｋｉ
「僕は殺し合いに乗ってないです」
阪神虎之介
「良かった、殺し合いに乗ってない人に会って良かった・・・」
２人は状況説明を始めた。そして、ある程度話が進み、内容は主催者の話へ・・・。
阪神虎之介
「主催者の疾風の音さんについてですが・・・」
ｒｙｏｕｋｉ
「その事だけど、僕は疾風の音さんは操られてると思っている」
阪神虎之介
「それはどう言う事だ！」
まさかの疾風の音洗脳論がｒｙｏｕｋｉの口から飛び出した。
ｒｙｏｕｋｉ
「じゃあ何故主催者が殺し合いの場に居るんだ？それ以前に、これだけの人数を彼１人で動かせる訳には行かないんだ」

阪神虎之介
「40人だったよな？確か・・・だが本当に主催者が疾風の音さんならどうするんだ！」

ｒｙｏｕｋｉ
「疾風の音さんの一人称は『俺』だった筈、なのに会場の中には一人称は『私』だった」

阪神虎之介
「確かに・・・」

ｒｙｏｕｋｉ
「ならやる事は1つ、疾風の音さんを見つけて、別の主催者を倒す。あくまで僕の推測だけど」

阪神虎之介
「俺も行く、主催者は他に居るか・・・」

2人は疾風の音を探す為に歩き出す、殺す対象では無く、共に止める対象として。

共に倒す者として（後書き）

現在の状態（宮殿エリアB－2）

ｒｙｏｕｋｉ
状態：正常
装備：ハルバード
持っている物：バック一式
思考1：疾風の音を探す
思考2：殺し合いには乗らないが相手が攻撃した場合は対処する
移動宮殿エリアB－2↓B－1
＊疾風の音は洗脳されていて、別の主催者が居ると考えていますが、あくまで推測です。

阪神虎之介
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式
思考1：疾風の音を探す
思考2：殺し合いには乗らない、脱出が目標
移動：宮殿エリアB－2↓B－1

＊宮殿はC－3にあります。

月明かりが見た中で（前書き）

登場人物

折原　空、トライス・ドレッド、黒龍美牙

月明かりが見た中で

折原　空
「私はどうすればいいんでしょうか・・・」

森エリアで月を見上げて呟く折原空。

折原　空
「良い月ですね・・・ここが殺し合いの場では無いのがもっと良いのですが・・・」

？？？
「こんにちは」

そこへ、１人の男性が声をかけてきた。

折原　空
「あっ、こんにちは」

トライス
「私はトライス・ドレッドと言います」

折原　空
「私は折原空と言います」

トライス
「良い名前ですね、それでは早速ですが・・・」

トライス
「死んでください」

折原　空
「え？」

スパッ！

折原　空
「あっ・・・危なかったじゃないですか！」

いきなりトライスがロングソードを取り出し、空に切りつける。

しかし、空はサッと避けたが肩が少し切れてしまった。

トライス
「やりますね、しかし次は無いですよ？」

折原　空
「くっ・・・」

トライス
「フレイム・シュート」

３つの炎のつぶてが空を襲う！

しかし、空はそれを何とか避ける。

それでもトライスは何度もフレイム・シュートを繰り出す。

折原　空
「きゃあ！」

すると、１つの炎のつぶてが空の足に直撃した。

トライス
「漸く止まりましたね、私は早く終わらせたいのです」

折原　空
「そんな事をして良いと思っているのですか！」

トライス
「残念ですね、私は既に人間性を無くしているもので・・・」

折原　空
「そんな・・・」

トライス
「それでは・・・お別れですね」

いや、まだ私は死にたくないです・・・まだやることが沢山残っているのに・・・助けて・・・誰か助けて下さい！

空は目をきつく瞑った。

カキンッ！

トライス
「・・・拍子抜けですね、邪魔が入りました」

???
「・・・」

そこに居たのは黒一色の少女が居た、ポニーテールの少女は弓矢でトライスのロングソードを弾いたのだ。

トライス
「やれやれ・・・本当に私の邪魔ばかりですね！」

トライスは少女に斬りかかる。

？？？
「やっ！」
トライス
「がっ！」

少女の矢がトライスの右の二の腕を貫通させた。

トライス
「ぐう・・・仕方がないですね・・・」

？？？
「殺し合いに乗っているなら私は容赦しないわよ」
トライス
「どうやら、ここは退いた方が良いですね・・・」

そう言ったトライスはその場を去った。

？？？
「大丈夫！？」

折原　空
「あっ・・・はい、大丈夫です。あの、名前を聞いても良いですか？」

黒龍美牙
「私は黒龍美牙、美牙(みか)って呼んで？」

折原　空
「私は折原空と言います」

黒龍美牙
「ここは危ないから、まずは移動始めよう？動ける？」

折原　空
「はい、何とか動けます」

２人は歩き出す、安全な場所を求めて・・・。

トライス
「くっ・・・中々やりますね・・・次はどうしましょうか・・・」

彼はまた別の道を歩き出す・・・右の二の腕が血で覆われていても、ただ歩き出す。何も人間性を感じさせず・・・。

月明かりが見た中で（後書き）

現在の状態（森エリアＥ－５）

折原　空
状態：足を負傷、それ以外は健康
装備：なし
持っている物：バック一式
思考１：安全な場所に移動する
思考２：殺し合いはせずに皆で帰りたい
移動：森エリアＥ－５↓町エリアＡ－５
＊トライス・ドレッドは殺し合いに乗っていると断定しました。

黒龍美牙
状態：正常
装備：ショートボウ（１８／２０）
持っている物：バック一式
思考１：安全な場所に移動する
思考２：殺し合いに乗る気はない
移動：森エリアＥ－５↓町エリアＡ－５

トライス・ドレッド
状態：右の二の腕が貫通
装備：ロングソード
持っている物：バック一式
思考：殺し合いに乗り優勝する

移動：森エリアE－5↓洞窟エリアE－1

彼は何も知らない（前書き）

登場人物

疾風の音

彼は何も知らない

宮殿の中に主催者の男が・・・いや、正確には主催者にされた男が居た。

その名は疾風の音、彼は会場では無く、直接的に殺し合いの場にやって来たのだ。

疾風の音
「うう・・・ここは何処だ？」

宮殿内が響いている、人が住んでいる気配は全くない。

疾風の音
「これはバックか？何で・・・まさか！」

彼はこの場が殺し合いの場と気付いたようだ。

疾風の音
「・・・取り敢えず見てみよう・・・」

疾風の音はバックを見ることにした。

彼が取り出した武器は・・・。

疾風の音
「小さい剣みたいだな・・・」

疾風の音が取り出した武器は『ニバンボシ』と言う武器だ。

疾風の音
「ここから出た方が良いかな、誰かに会えばなんとかなるのかも知れないし」

疾風の音は宮殿を出るために歩き出した。

しかし、彼は知らなかった。既に彼に変装した者によって、彼は主催者とされている事も。

そして、そのせいで彼が一番殺される可能性が高い事にも、彼は全く知らなかった。

彼は何も知らない（後書き）

現在の状態（宮殿エリアＣ－３）

疾風の音
状態：若干混乱中
装備：ニバンボシ@テイルズオブヴェスペリア
持っている物：バック一式
思考１：宮殿から出る
思考２：誰かに会う
移動：宮殿エリアＣ－３（宮殿内）

@ニバンボシ
テイルズオブヴェスペリアの主人公、ユーリ・ローウェルが持っている武器

私は嘘をつく（前書き）

登場人物

パルポン、墓守レイカ

私は嘘をつく

パルポン
「うん、明らかにこれは・・・あれだよな」

洞窟エリアでバックの中の支給品を調べていた。そして、出てきた支給品は・・・。

パルポン
「ハリセン・・・何故？まあ、良いか」

ハリセンを装備したパルポンは参加者名簿を見る事にした。

パルポン
「あっ！テルが居る・・・それに、ミルも・・・」

パルポンの言うテルと言うのはテルカだ、そして、ミルの名前を見た瞬間、顔をしかめた。

パルポン
「ミルが居るのか・・・なら・・・」

？？？

「誰か居るの？」

パルポン
「！」

パルポンの近くに現れたのは、タレ目で右目に眼帯をしている少女が居た。

？？？
「大丈夫だよ、私は乗ってないから」

パルポン
「そ、そうか・・・（気付かなかった・・・）」

墓守レイカ
「私は墓守レイカ、歩いてたら貴方と会った」

パルポン
「俺はパルポン、同じく殺し合いには乗っていない」

墓守レイカ
「宜しくね」

パルポン
「レイカ、支給品は何なんだ？」

墓守レイカ
「私はこれだね」

レイカの手にあるのはなんと、ショットガンだった。

パルポン
「何でそんなものが・・・」

墓守レイカ
「分からない、でも支給品は凄いって事が分かったよ」

パルポン
「それで、これからどうする？」

墓守レイカ
「移動とかしてたら殺し合いに乗った人達に見つかると思うから、ここで待機しましょうか」

パルポン
「分かった・・・」

パルポンは頷く。

墓守レイカ
（この人を利用して、使えなくなったら殺そうかな・・・私はまだ死にたくないからね・・・）

墓守レイカは嘘をついた、実は彼女は殺し合いに乗っていた。しか

しパルポンは殺し合いに乗っていないとレイカを信じた。

所謂、墓守レイカはステルスとして殺し合いに乗ったのだ。

勿論、今の段階でパルポンはレイカが殺し合いに乗っていることなど知ることは無かった・・・。

私は嘘をつく（後書き）

現在の状態（洞窟エリアＢ－２）

パルポン
状態：正常
装備：ハリセン@テイルズオブシンフォニア
持っている物：バック一式
思考１：主催者打倒
思考２：テルカとの合流
思考３：ミルの対処
移動：洞窟エリアＢ－２で待機

墓守レイカ
状態：正常
装備：ショットガン（５／５）
持っている物：バック一式
思考１：パルポンを利用し、使えなくなったら殺す
思考２：殺し合いに乗らないフリをする
思考３：霊宮空刀に会いたい
移動：洞窟エリアＢ－２で待機

@ハリセン
テイルズオブシンフォニアに出てくる武器の１つ、外見に目が行くがかなりの攻撃力を持つ。

禍々しい闇（前書き）

登場人物

横浜学園都市部、榊原直久、カイ・R・銃王

禍々しい闇

横浜学園都市部
「これは無いな、まさかバトルロワイヤル、所謂殺し合いが現実にあるなんて思わなかった」

作者の1人、横浜学園都市部はまだ殺し合いが信じられなかった。

しかし、これは現実の世界、頬をつねっても痛かった。

横浜学園都市部
「支給品が何か見るためにバックの中を調べるか・・・」

横浜学園都市部はバックの中を調べた。

横浜学園都市部
「おお！刀か！凄い良い刀だ！」

確かに凄く良い刀を手に入れた横浜学園都市部だが、何故か刀は禍々しい力が帯びていた。

横浜学園都市部
「何だ！？この刀・・・手から離れない！おかしい！うわあああぁ

ぁぁ！！！」

刀から禍々しい何かが横浜学園都市部を包み込んだ・・・。

横浜学園都市部
『ふっ・・・この身体に我が刀は耐え難いが、まあ良いわ・・・』

意味深い言葉を放った横浜学園都市部、バックを持ち、ゆっくりと歩き出す。

それを見ていた1人の青年・・・。

榊原直久
「彼処に居るのは参加者か！？」

オリキャラの榊原直久だ。直久は横浜学園都市部に近づく。

榊原直久
「確かアンタは横浜学園都市部さんだよな！良かった、殺し合い打破の為に一緒に行かないか？」

しかし、横浜学園都市部は無視をして歩く。

榊原直久
「聞いているのか！？」

直久が近付くが・・・。

横浜学園都市部
『我に近づくな！下郎が！』

いきなり刀で直久を斬りかかる。

榊原直久
「うわ！何なんだよ！まさか、アンタも殺し合いに乗っているのか！」

横浜学園都市部
『丁度良い・・・我が力の糧となり、魂を捧げよ！』

榊原直久
「分からない言葉ばっかり言いやがって！俺がアンタを止めてやる！」

横浜学園都市部
『ふん！』

横浜学園都市部が禍々しい闇で直久を攻撃する。

榊原直久
「よっと！」

それを直久は軽やかに避ける。

榊原直久
「次は此方の番だ！ヒュースラッシュ！」

一直線に風の刃が横浜学園都市部に襲いかかるが。

横浜学園都市部
『緩すぎるわ！』

禍々しい力が解放され、ヒュースラッシュは跳ね返される。

榊原直久
「ぐわあああ！！！」

直久は吹き飛ばされ、横浜学園都市部は直久に近付く。

横浜学園都市部
『さあ・・・魂を捧げよ！』

？？？
「待て！」

直久が殺される直前、そこに現れたのは１人の参加者。

カイ・Ｒ・銃王
「俺はカイ・Ｒ・銃王！殺し合いは今すぐ止めろ！」

榊原直久
「カイ・・・？作者さんか！？」

カイ・Ｒ・銃王
「はい、そうです！」

榊原直久
「何か、横浜学園都市部さんの様子がおかしいんだ」

カイ・Ｒ・銃王
「あの刀が怪しいな・・・一緒に止めますか？」

榊原直久
「ここは俺だけで何とかします。殺し合いを止める人が居ないといけない」

カイ・R・銃王
「だけど！」

榊原直久
「俺のバックを貫って欲しい、もう俺は限界に来てるんだ・・・俺の魔法が跳ね返されて、全身が傷だらけだ」

直久はカイにバックを渡し、横浜学園都市部を見た。

榊原直久
「うおおおぉぉぉ！！！」

横浜学園都市部
『死霊の暴発！』

榊原直久
「ゴッドバード！」

2人の間に巨大な爆発音が包み込む・・・。

そして爆発が収まり、カイ・R・銃王が見た先には・・・。

刀で心臓を貫かれていて、息絶えている榊原直久とその刀を上にあげていた横浜学園都市部の姿があった。

横浜学園都市部
『我が名は妖刀村正・・・』

更に横浜学園都市部には傷1つ付いていなかった。
横浜学園都市部は直久の亡骸を捨て、歩き出していった。

カイ・R・銃王
「直久！」

直久の身体は心臓を貫かれ、即死していた。
おそらく、対主催が居なければならないと言う最期の希望なのかも知れない。

カイ・R・銃王
「直久・・・、必ず俺は生きて帰る！絶対に！」

カイは直久の亡骸に両手を合わし、少しだけ黙祷し、歩き出す。もうこれ以上犠牲者が出ないように・・・。

榊原直久　死亡確認　【残り38人】

禍々しい闇（後書き）

現在の状態（森エリアＣ－３）

横浜学園都市部
状態：妖刀村正が洗脳、魔力消費（小）
装備：妖刀村正＠オリジナル
持っている物：バック一式
思考：魂を村正に捧げる為に参加者を殺す
移動：森エリアＣ－３↓Ｂ－３

カイ・Ｒ・銃王
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック２つ
思考１：殺し合いを打破の為に参加者を探す
思考２：空を最優先に探す
移動：森エリアＣ－３↓Ｄ－３

＠妖刀村正
何者かが封印された史上最悪の妖刀、持った者は刀に洗脳される。

音が響けば奴が来る（前書き）

登場人物

ミル、ハデス

音が響けば奴が来る

ミル
「殺し合いか・・・面白いじゃない。アタイが全員殺しても良いよね？」

ミルにとって殺し合いは悦ばしいことだった。

何故なら彼女はかなりのバトルマニアだからだ。

ミル
「だけど・・・アタイにはこの武器は合わないなあ・・・」

彼女はしかめた顔をしたのだ。

彼女の支給品は『おたま』だからだ。

ミル
「そして・・・これは・・・」

更に彼女の左手には『フライパン』を持っていた。

ミル
「右手におたまを！左手にフライパンを！秘技、死者の目覚め！」

ガンガンガンガンガン！

ミル
「って・・・アタイはＴＯＤのリリス・エルロンか！」

と突っ込みを入れたミル。

ミル
「まあ殺した奴から奪えば良いし、フライパンとかも武器になるし、
アタイは魔法も使えるし」

？？？
「いきなりデカイ音がしたから何だと見たら・・・」

急に、銀髪のボサボサした髪型に黒の服装した男が現れた。

？？？
「君、良く見たら可愛いじゃないの」

ミル
「誰？アンタ」
ハデス
「俺はハデス、何か音がしたから来てみたら可愛い女の子が居るじゃないかと思ってね、君みたいな女の子を見てたら・・・」
ハデス
「虐めたくなるじゃないか・・・」
ミル
「アタイはチャラい男は大嫌いだよ」
ハデス
「まあ良いじゃないか？」
ミル
「しつこい！ライトニング！」
ハデス

「よっと！」

小さな雷光をハデスに攻撃するが、ハデスは軽やかに避ける。

ハデス
「良いねえ、君のような男勝りな女の子は・・・デーモンハンド！」

幾つもの悪魔の手がミルに襲いかかる！

ミル
「きゃあああ！！！」

デーモンハンドがミルの身体を掴み、建物に激突した。建物は一瞬の内に瓦礫に変わる。

ハデス
「もう終わりかな？」

瓦礫になった建物に近付くハデスだが、その時だった！

ミル
「スプラッシュ！」

ハデス
「ぐあああ！！」

大量の水がハデスの頭上に落ちてきた。

そして、瓦礫の中からミルが出てきた。

ミル
「決めた・・・まずはアンタから殺してやる！」

ハデス
「良いねえ、その目は・・・その目で怯える顔を見てみたいよ・・・」

ミルとハデス、２人のすれ違った戦いが始まろうとしている・・・。

音が響けば奴が来る（後書き）

現在の状態（町エリアＣ－４）

ミル
状態：ＨＰ９２％　ＭＰ９７％　服が少し破れている
装備：なし
持っている物：バック一式、おたま、フライパン＠共にテイルズオブデスティニー
思考１：殺し合いに乗って優勝する
思考２：ハデスを殺す
思考３：パルポンとテルカを見つけて最優先に殺す
移動：町エリアＣ－４で戦闘
＊魔法弱体化に気付いていません。

ハデス
状態：ＨＰ９４％　ＭＰ９２％　ずぶ濡れ
装備：なし
持っている物：バック一式
思考１：虐めたい人物を探す
思考２：ミルを虐める
移動：町エリアＣ－４で戦闘
＊バックが濡れていますが中身は濡れていません。

＠おたまとフライパン
テイルズオブデスティニーの主人公スタンの妹、リリスが持ってい

る武器。

受け継いだ人形（前書き）

登場人物

カイ・R・銃王、ジョディ・ブローリー、ディスペイト

この回から、時間帯が２時～４時になります。

受け継いだ人形

カイ・R・銃王
「そう言えば直久の支給品は何だろうな」

直久の支給品が何かあるか調べるカイ。出てきたのは小さな人形だった。

カイ・R・銃王
「人形だ、良く出来てるな・・・生きているみたいだ」

人形の髪を触ったその時、人形の目が開く。

人形
「シャンハーイ」

カイ・R・銃王
「うおあ！」

急に喋りだした人形、人形の手には紙があった。カイはその紙の内容を読み始めた。

―上海人形―自立人形である。

カイ・R・銃王
「これだけかよ!」

上海人形
「バカジャネーノ」

カイ・R・銃王
「煩い!」

人形と漫才をしていたその時!

???
「ハロー!」

カイ・R・銃王
「うわ!吃驚した・・・」

ジョディ
「ワタシはジョディ・ブローリーデス!宜しくお願いしますネ!」

流暢な日本語で喋る女性、ジョディはカイに話しかけてきた。

カイ・R・銃王
「俺はカイ・R・銃王と言います」

ジョディ
「このバトルロワイヤルはクレイジー過ぎますね、ここの主催者もクレイジーデスね」
カイ・R・銃王
「その主催者がここの何処かに居るんだ。必ずぶっ倒す」
ジョディ
「ワタシも協力します！必ず主催者をギャフンと言わせましょう！」
???
「見つけた・・・」

そこへ、黒い戦斧を持った存在が現れる・・・。

ディスペイト
「しかも2人も居るなんて・・・キャハハハ・・・」

ディスペイトが2人に襲いかかる！

カイ・R・銃王
「ジョディさん!上です!」

ジョディ
「Oh!」

ディスペイト
「ハーケンセイバー!」

ドゴーーーン・・・

ジョディ
「吃驚デスね!」

カイ・R・銃王
「アイツの武器を持ってるのは・・・バルディッシュか!」

ディスペイト
「使いやすいけど、技とかはまだ慣れないかな?」

カイ・R・銃王
「アンタは誰だ!」

ディスペイト
「あたしはディスペイト、君達を殺しに来たの」

ジョディ
「クレイジーガールデスね！」
カイ・R・銃王
「殺し合いに乗っているのか・・・」
ディスペイト
「さあ・・・君達も絶望する顔を見せてよ！」
バルディッシュを構えたディスペイトは2人を殺す為、突撃する！
カイ・R・銃王
「俺は負けるか！直久の意思は俺が継いでやる！」
ジョディ
「ワタシも負けませんよ！」
2人はディスペイトを撃退するべく立ち向かう！
果たして2人はディスペイトに勝てるのか！

受け継いだ人形（後書き）

現在の状態（森エリアＤ－４）

カイ・Ｒ・銃王
状態：正常
装備：上海人形＠東方Ｐｒｏｊｅｃｔ
持っている物：バック一式
思考１：ディスペイトをなんとかする
思考２：空と出会う
思考３：主催者をぶっ倒す
移動：森エリアＤ－４で戦闘

ジョディ・ブローリー
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式
思考１：ディスペイトを対処する
思考２：カイと一緒に進む
移動：森エリアＤ－４で戦闘

ディスペイト
状態：正常
装備：バルディッシュ＠魔法少女リリカルなのは
持っている物：バック一式、ハンドガン（１２／１２）
思考１：絶望をする顔が見たい

思考2：カイとジョディを絶望させた後に殺す
移動：森エリアD－４で戦闘

@上海人形
アリス・マーガトロイドが常時、隣に居る人形。攻撃重視の人形。

狙われる主催者？（前書き）

登場人物

八木紀葉、テルカ、疾風の音、熊谷雅之

狙われる主催者？

八木紀葉
「じゃあ、テルカさんは仲間を探しているんですね」
テルカ
「はい、パルは信頼出来る仲間なんです」

テルカと合流した八木紀葉は、宮殿の近くに移動していた。

テルカ
「ここは宮殿ですね」
八木紀葉
「誰か居るかも知れないので、確めに行きますか？」
テルカ
「そうですね、行きましょう」

2人が宮殿の中に入ろうとしたその時だった。

コツコツコツ・・・

テルカ

「足音が聞こえる・・・」

八木紀葉
「え!?まさか、殺し合いに乗ってる人だったら・・・」

テルカ
「覚悟した方が良いですね」

テルカは支給品の『レイピア』を装備し、足音が聞こえた人物に備える。

八木紀葉は支給品が『ノートパソコン』だったため、武器が無く、テルカの後ろに隠れる。

???
「誰か居る・・・」

宮殿から出てきた人物は細い剣を持っていた。

テルカ
「!」

八木紀葉
「テルカさん!?」

その人物を見た瞬間、テルカがその人物に攻撃しようと突っ込んだ。

テルカ
「光よ！フォトン！」

???
「うわ！」

テルカが魔法を発動したがその人物はなんとかそれを避ける。

八木紀葉
「テ、テルカさん！何でいきなりその人を攻撃してるんですか！」

テルカ
「紀葉(きよう)！だってコイツは・・・」

テルカ

「主催者の疾風の音にそっくりなのよ！？」

八木紀葉
「えっ！？」

疾風の音
「どういう事だ？主催者ってどういう事だよ！」

テルカと紀葉（きよう）が出会ったのはなんと疾風の音だった！

テルカ
「よくもわたし達をこんな殺し合いの場所に連れてきてくれたわね！覚悟しなさい！」

疾風の音
「言っている事がよく分からない！」

テルカ
「聞き捨てならないわ！」

カキィン！

ニバンボシでレイピアを防ぐ疾風の音。

八木紀葉

「は、話ぐらいは聞いてあげた方が良いと思いますが・・・」

疾風の音
「俺も全くどういう状況か分からないんだよ！」

八木紀葉
「テルカさん、一様話ぐらいは聞きましょう？」

紀葉（きょう）がそう言うとテルカは武器を降ろした。

テルカ
「話ぐらいは聞いた方が良いですね、話ぐらい（●●●●）は」

疾風の音
「強調しないでください・・・」

2人は疾風の音の話を聞くことにした。

八木紀葉
「目が覚めたらいつの間にか宮殿の中に居た？」

テルカ
「嘘じゃないの？」

疾風の音
「嘘じゃない！もし嘘をついてたら・・・俺が2人を殺してた、それに・・・」
八木紀葉
「それに？」
疾風の音
「いや、ここではあえて言わない・・・2人はどうするんだ？」
テルカ
「貴方を見張らせてもらうわ、変な動きをしたらそれなりの対処をするわ」
八木紀葉
「私は付いていく！」
疾風の音
「分かった、この場では俺にどうこう言う資格は無いからな・・・」
テルカ達に疾風の音を加わり、対策を練る。
しかし、約100メートルの距離に疾風の音を狙っている男が居た。

熊谷雅之
「アイツを撃てば・・・全て終わる・・・」

スナイパーライフルを手に持ち、熊谷雅之は狙い撃つ・・・。

狙われる主催者？（後書き）

現在の状態

テルカ
状態：正常
装備：レイピア
持っている物：バック一式
思考1：パルポンと合流
思考2：ミルの対処を考える
思考3：疾風の音を警戒
思考4：バトルロワイヤル打破
移動：宮殿エリアC－3（宮殿前）

八木紀葉
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式、ノートパソコン（残り充電8時間）
思考1：紀葉との合流
思考2：バトルロワイヤル打破
思考3：疾風の音に付いていく
移動：宮殿エリアC－3（宮殿前）

疾風の音
状態：若干混乱中
装備：ニバンボシ@TOV
持っている物：バック一式

思考１：これからを考える
思考２：２人と行動する
思考３：主催者とは何なんだ？
移動：宮殿エリアＣ－３（宮殿前）

熊谷雅之
状態：正常
装備：スナイパーライフル（６／６）
持っている物：バック一式
思考１：疾風の音を殺す
思考２：殺した後は２人（テルカ、八木紀葉）を救出
移動：宮殿エリアＣ－３（宮殿から１００メートル離れている）

作者達の違う道（前書き）

登場人物

紀葉、しら、ピッキー

作者達の違う道

紀葉
「ここから森になってる！」
レイジングハート
『どうしますか？マスター』
紀葉
「まずは・・・町で出来るだけ準備した方が良いかな」
紀葉は近くに食堂があったのでそこに向かう事にした。

食堂

紀葉
「う~ん・・・使えそうな物が少ないなあ・・・」
?.?.?
「誰か居るのか・・・？」
紀葉
「あれ！？貴方は・・・しらさん！」
しら

「紀葉さん・・・ですか？」

しらは食堂に潜んでいた。殺し合いと言う理不尽な現実はしらには大きすぎた。

紀葉
「しらさんは大丈夫ですか？」

しら
「まあなんとかなってるよ・・・こんなご時世に殺し合いがあるなんて・・・」

紀葉
「疾風の音さん、一体何を考えてるんだろう・・・」

？？？
「生きて帰る為に、殺してやる！」

紀葉
「えっ！？」

しら
「何だ！？」

ドンッ！と大きな音が聞こえた方向を見ると、１人の青年が２人を狙っていた。

紀葉
「ピ・・・ピッキーさん！」

しら
「何で殺し合いに乗っている！」

ピッキー
「生き残るのは１人だけなんだろう！だから俺が生きて帰る為に殺してやるんだ！」

紀葉
「この殺し合いの場で、物凄く混乱してるみたい」

しら
「どうするんですか？」

紀葉
「動きを止めます！」

しら
「でも、どうやって・・・」

しらがそう言うと、紀葉はレイジングハートを取りだした。

紀葉
「レイジングハート、セットアップ！」

レイジングハート
『Ｓｅｔ　ｕｐ』

いきなり紀葉は輝き出し、光が少なくなると、変身した紀葉の姿があった。

紀葉
「魔法少女リリカルのりは！参上です！」

そこには白い服を着た紀葉の姿が居た。

しら
「紀葉さん・・・」

紀葉
「い、今のは無かった事にしてください・・・」

ピッキーの手には支給品であろう、『金属バット』を持っていた。

紀葉
「動きを止めないと・・・バインド！」

ピッキー
「何！？」

レイジングハートの魔法により、ピッキーの動きを止めた。

しら

「凄いですね・・・紀葉さん」

ピッキー

「くそ！離せ！」

紀葉

「何で殺し合いに乗ったのですか！」

ピッキー

「俺は死にたくないからな！俺は諦めないぞ！絶対に殺し合いに乗る！」

しら

「どうしますか？」

紀葉

「バインドは30分程で解ける様になってる・・・仕方がないです・・・他の人を探して、殺し合い打破をしましょう」

しら

「分かった・・・」

ピッキー

「俺は諦めないぞ！絶対に全員殺してやる！」

紀葉としらは殺し合いの打破を願い、歩き出した。

そして、殺し合いに積極的のピッキー・・・。

同じ作者でも、違う道を歩んでしまうのが、バトルロワイヤル・・・。

作者達の違う道（後書き）

現在の状態

紀葉
状態：正常　バリアジャケット装着
装備：レイジングハート@魔法少女リリカルなのは
持っている物：バック一式
思考：不屈の心で殺し合いを打倒する
移動：町エリアＡ－１（食堂を出ました）

しら
状態：正常
装備：金属バット
持っている物：バック一式
思考：紀葉と共に殺し合いを打破する
移動：町エリアＡ－１（食堂を出ました）

ピッキー
状態：バインドで捕縛されている
装備：なし
持っている物：バック一式
思考：生きて帰る為に殺し合いに乗る
移動：町エリアＡ－１（食堂内）

死ぬことと生きること（前書き）

登場人物

セーラ、霊宮空刀

死ぬことと生きること

セーラ
「この傘は物凄く綺麗ね～見て見て～」
霊宮空刀
「そんな事を言っている暇があれば注意をしろ」
セーラ
「リーダーの私に注意する気！？」

セーラと霊宮空刀は現在、Ｂ－３に戻っていた。

霊宮空刀
「注意を怠るなと言っただけだ、それにアンタ・・・シスターだったんだな」
セーラ
「そうよ、私は神に仕える身なの」
霊宮空刀
「アンタみたいな奴が良くシスターになったな」
セーラ
「言っておくけど、私はまだ経験はしてないわよ」
霊宮空刀

「経験豊富かと思ったぞ・・・」

セーラ
「失礼ね！私はこれでも真剣ですのよ！」

霊宮空刀
「真剣にならないと死ぬぞ、死にたくないんだろう？」

そんな話をしていると、セーラが突然こんな話をしてきた。

セーラ
「・・・ねえ、霊宮は『死ぬ』ってどんな感じかな・・・」

霊宮空刀
「どうしたんだ？突然」

セーラ
「死ぬなんて、理解出来ないって時が有るの・・・戦いとかで突然、知り合いの誰かが死ぬって思うと・・・怖くて・・・」

セーラに似合わない顔を見た霊宮空刀はこう言った。

霊宮空刀
「確かに死ぬのは怖いな、人の命は1つだ。その1つの命で出来る限りの事をしたい。セーラはどう思う？」

セーラ
「私は、そんな事を思った事が無かった・・・でも何もしないで死ぬより、足掻いて何か傷痕を残して死にたい・・・でも死ぬのは怖い、だって私は死にたくないから・・・それに・・・」

霊宮空刀
「ああ、殺し合いと言う、人の命を簡単に弄ぶ最悪な行為をした・・・主催者を許すわけにはいかない・・・」

霊宮空刀は支給品である『ラージシールド』と一軒家にあった『果物ナイフ』を装備した。

セーラも偶然あった『銅の剣』を見つけ、装備した。

セーラ
「本当に果物ナイフで良いの？」

霊宮空刀
「ああ、準備は良いか？今から森に行くぞ・・・人を集めるんだ」

セーラ
「そうね・・・じゃあ私に着いてきなさい！」

霊宮空刀
（さっきまでシリアス的な感じだったのに・・・）

セーラ
（必ず、私は帰るんだから！死んでも悔いが無いように、私は戦う

！」

心の中は既に覚悟が出来た様だ。

2人は人数を集めるべく、森に向かう。

死ぬことと生きること（後書き）

現在の状態

セーラ
状態：正常
装備：銅の剣@ドラゴンクエスト
持っている物：バック一式、風見幽香の傘@東方Ｐｒｏｊｅｃｔ
思考１：リーダーは私よ！
思考２：殺し合いを止めるため、疾風の音を倒す。
移動：町エリアＢ－３→森へ

霊宮空刀
状態：正常
装備：果物ナイフ、ラージシールド@オリジナル
持っている物：バック一式
思考：殺し合い打倒の為に仲間を集め、主催者を倒す
移動：町エリアＢ－３→森へ

@銅の剣
ドラゴンクエストに登場する剣、序盤の冒険では冒険者の旅のお供。

@ラージシールド
大きな盾、防御も高く冒険者にとってかなり愛用される。

洞窟の中の足音3つ（前書き）

登場人物

泉涼、秋雨涙

洞窟の中の足音3つ

ザッザッザッ・・・

トテトテトテ・・・

2つの足音が洞窟の中で響き渡る。

???
「それにしても、しっかり歩くんだな・・・」

???
『私も生きてるんだよ?人形だけど・・・涼はどうしたいの?』

泉涼
「勿論このふざけた殺し合いを止めさせる。あっ、あまり毒を出すなよ、メディスン」

メディスン
『分かってるよ、仲間が居るときは毒を出さないようにする』

泉涼の支給品は『鉄の槍』と動く毒人形『メディスン・メランコリー』だ。

メディスン

『でも吃驚したよ、いきなり目の前が真っ暗になったと思ったら、ここは幻想郷じゃないし・・・』

泉涼
「その幻想郷って何なんだ？」

メディスンは涼に幻想郷について色々と話した。

泉涼
「成る程、幻想郷か・・・其処にはメディスンの知り合いが居るのか？」

メディスン
『う～ん、それほどって事でも無いけど、居るには居るよ』

泉涼
「そうか・・・ん？」

コツコツコツ・・・

１つの足音が涼達に近付いてくる。涼は殺し合いに乗っている人物か否か見るため、槍を構える。

涼
「メディスン、合図したら頼むぞ」

メディスン
『うん、分かった』

涼達の目の前に現れたのは、ゴスロリの少女だ。彼女はおそらく支給品の杖『りりょくの杖』を持ち、此方を向いていた。

泉涼
「名前は？」

秋雨　涙
「秋雨涙、大丈夫よ。乗っていないから」

泉涼
「そうか、俺は泉涼。同じく乗っていない」

秋雨　涙
「刀持ってない？」

泉涼
「いや、持っていないが・・・どうしたんだ？」

秋雨　涙
「私、抜刀術・・・所謂刀が欲しいのよ、だから持ってる支給品と交換して欲しくて」

泉涼
「残念だったな。俺の支給品はこの槍と・・・」

メディスン
『私だよ！』
秋雨　涙
「動いてるわね、貴方は人間じゃないわね」
メディスン
『私は人形、しかも毒を持つ人形だよ。そうだ！涙も一緒に行こうよ！』
メディスンは涙も一緒に行動して欲しいように進む。
秋雨　涙
「え？でも・・・」
泉涼
「まあ、別れて殺し合いに乗っている奴に会って殺されるより、人数が多い方が良いな」
メディスン
『ね？良いよね？』
泉涼
「刀を探すには1人より2人だな」
秋雨　涙
「そうね・・・じゃあ宜しく」

メディスン
『それじゃ行こう！』

メディスンに引っ張られる涼に、付いていく涼。

2人と1体の人形は洞窟を歩いていく。

洞窟の中の足音３つ（後書き）

現在の状態

泉涼
状態：正常
装備：鉄の槍
持っている物：バック一式、メディスン・メランコリー@東方Ｐｒｏｊｅｃｔ
思考１：殺し合いを打破する
思考２：刀を探す
移動：洞窟エリアＣ－５→Ｃ－４

秋雨涙
状態：正常
装備：りりょくの杖@ドラゴンクエスト
持っている物：バック一式
思考１：刀を探す
思考２：殺し合いには乗らないが、襲ってくる相手には容赦しない
思考３：主催者に対しては保留
移動：洞窟エリアＣ－５→Ｃ－４

@メディスン・メランコリー
東方Ｐｒｏｊｅｃｔに出てくるキャラクターで『毒を操る程度の能力』を持つ人形。

@りりょくの杖

ドラゴンクエストに出てくる武器で魔力を攻撃力に変えて攻撃する為、力の無い魔法使いには持ってこいの武器。

再会の中での・・・（前書き）

登場人物

スマッシュ、エンジェル、デビル、宮薙煉華、ミル、ハデス

再会の中での・・・

スマッシュ
「ここだと見つからないな」

町エリアのとある一軒家に潜むスマッシュ。彼は恐怖心がもの凄く高く、こう言う風に隠れていたのだ。

スマッシュ
「だけど、疾風の音さんが殺し合いをしろって言われるなんて思わなかった・・・」

スマッシュが一軒家に潜んで居ると、扉が開かれる。

スマッシュ
「誰か来たのか！？殺られる前に殺るしかない・・・！」

？？？
「・・・」

スマッシュは支給品に入っていた『マグナム』で迎え撃つ。

？？？

「誰か居るのですか！？」

スマッシュ
「動くな！」

謎の人物はスマッシュにマグナムを向けられる。

スマッシュ
「お前も俺を殺すのか！？殺し合いに乗っているのか！？」

？？？
「待って下さい！私は殺し合いに乗っていません！」

スマッシュ
「本当か？」

？？？
「はい、私は乗っていません。その銃を降ろしてください」

スマッシュ
「分かった」

マグナムを降ろすスマッシュ。そしてスマッシュに近付く謎の人物。

エンジェル

「私はエンジェルと言います。話をしても良いですか？」

スマッシュ

「ああ、俺はスマッシュだ。すまなかったな銃を突きつけて」

エンジェル

「いいえ、私は気にしていませんから」

スマッシュの前に現れたのはエンジェルこと浅間りな、彼女も殺し合い打破の為に動いている。

エンジェル

「ここで休憩をしようと思ったのですが、先客が居ましたか」

スマッシュ

「いいえ、良ければどうぞ」

その時だった。

ドーーーーン！！！

スマッシュ

「なっ・・・何だ！？爆発音が近くに・・・」

エンジェル

「行って見ましょう！」

スマッシュとエンジェルが爆発音の聞こえた場所に言ってみることにした。

そして、一方此方も・・・。

デビル
「爆発音が聞こえているな」

宮薙煉華
「どうしますか！？」

デビル
「行ってみるか・・・」

宮薙煉華
「ま、待って下さい！ボクも行きます！」

デビルと煉華もその場に移動を始める。

ミル
「いい加減にしなよ！アタイはアンタが嫌いだって言っているじゃないか！」

ハデス
「良いね！君は惚れちゃうよ！ダーク・フォース！」

ハデスが、手に小さな黒い玉を作り出し、ミルに攻撃する。

ミル
「あああ！！！」

小さな黒い玉が徐々にミルにくっついていく。

そして顔以外の全身が包みこまれる。

ハデス
「はあ！」

ミルをその力で浮かせて・・・。

ミル
「がはぁ！」

叩きつけた。

ミルの背骨が少しだがダメージを受けた。

ミル
「ゲホ！ガハ！」

呼吸がやや辛く、息があがるミル。

ハデス
「ははは・・・まだこんな物じゃないだろう？」

ダメージを受けてなお、ミルは立ち上がる。

ミル
「本気でキレた！本気で殺す！サラマンダーブレス！！！」

ミルの必殺魔術のサラマンダーブレスがハデスを襲いかかる！

ハデス
「うおおおお！」

燃え盛る炎がハデスを飲み込む！

スマッシュ
「な・・・何だ！？これは！」

エンジェル
「炎が・・・」

スマッシュとエンジェルが爆発音をした場所に辿り着くと、辺りが炎に包まれていた。

デビル
「何だよ・・・炎の海じゃねえか・・・」

エンジェル
「デビル！？」

デビル
「エンジェルか！？何でこんなところに！」

宮薙煉華
「デビルさん速いです！」

デビルと煉華も爆発音の場所に到着する。

ミル
「はぁ・・・はあ・・・何で、今までの様な力が出ないの！？」

ミル曰く、サラマンダーブレスの力があまり出ないと思ったのだ。

ミル
「まさか、魔術が弱体化してる！？半分位しか出てない・・・」

ハデス
「こんなものなのかい？」

ミル
「そんな、サラマンダーブレスが・・・」

魔力が今までより力が無くても、ミルの主力魔術が全く効かないのだ。

ミル
「あ・・・ああ・・・」

スマッシュ
「おい・・・これは向こう（ミルの事）危なくないか！？」

宮薙煉華

「助けないと！」

煉華がミルを助ける為に動く。

ハデス
「さあ・・・止めだ！」

ハデスがミルに止めを刺す為に支給品の忍者の持つクナイで近付く。

ハデス
「はあ！」

宮薙煉華
「やあああ！！！」

ガキィーン！

ハデス
「なっ！」

宮薙煉華
「これ以上、この人を傷付けさせない！」

彼女、宮薙煉華の支給品に入っている『エクスカリバー』で受け止めた。

スラッシュ
「あれはＦａｔｅのセイバーが持っていたエクスカリバー！」

デビル
「そんなに凄い武器なのか！」

しかし、ハデスは全く動じず、一旦煉華から離れる。

ハデス
「君は何者なんだい？」

宮薙煉華
「貴方に名乗る名前じゃないよ！」

ハデス
「正義の味方気取りか？苛々するね！」

そう言ったハデスは煉華を通りすぎ、ミルに向かっていく。

宮薙煉華
「嘘！？」

ハデス
「終わりだ！」

ドスッ・・・

―アタイ、ここで終わりかな？まだパルポンもテルカも殺せなかった・・・まあ良いか、アタイが死んでもあの２人はアタイの心配なんてしないだろうし・・・―

ミルはゆっくりと目を開ける、そこに居たのは１人の少女がミルを身体１つで護っていた。

エンジェル
「う・・・く・・・あ・・・」

ハデスのクナイが、エンジェルの身体を突いていた。
エンジェルの身体から血が流れる。側に居たデビルもただ突っ立っていた。

デビル
「エンジェルーーー！！！」

ハデス
「なっ、離せ！」

エンジェルがハデスの肩を掴んでいた。

スマッシュ
「エンジェルさん！」

エンジェル
「デビル！私の話を聞いてください！今から・・・私は死にます・・・！」

デビル
「なっ！どういう事だ！」

エンジェル
「私は死ぬ事になってしまいますが、もしアクロスが放送で私の名前を呼ばれると、殺し合いに乗るかも知れません、だから言ってください！」

エンジェル
「私は懸命に皆を救って命を絶ったと・・・だから私は何も悔いが無いと」

デビル
「おい・・・エンジェル！止めろ！」

―サイクロントルネード―

ハデス
「ぐああああ！！！」

デビル
「エンジェル！」

スマッシュ
「助ける事は出来ないのか！」

宮薙煉華
「でも、そんな事をしたらエンジェルさんが悲しんでしまう・・・」

そして、サイクロントルネードの魔力が消え・・・。

エンジェルの身体が倒れる。

ハデス
「はあ！はあ！良くも俺の身体に傷付けたな！この痛みは・・・絶対に許すものか！」

そう言うとハデスは何処かに消えていった・・・。

それと同時にミルが気を失う。

デビルはエンジェルに駆け寄る。

デビル
「エンジェル！おい！」

エンジェル

「ごめんなさい・・・私は戻れないです・・・でも私は良かったと思います、何故なら・・・」

エンジェルがゆっくりと目を閉じて・・・そのまま動かなくなった・・・。

デビル
「エンジェルーーー！！！」

スラッシュ
「・・・殺し合いは悲しみしか生まれない・・・」

宮薙煉華
「だけど、エンジェルさんは・・・笑ってましたよ・・・」

デビル
「・・・俺は、あの男を追いかける、手出しは無用だ。俺は馴れ合いは大嫌いだ」

そう言うとデビルはハデスを追いかけに行った。

スマッシュ
「エンジェルさんを、埋葬しないとな・・・」

宮薙煉華
「ボクも・・・」

スマッシュ
「いや、君は彼女の処置を頼む、いいか？」

宮薙煉華
「わ・・・分かりました・・・」

煉華は気を失っているミルに近づく。

スマッシュは気付く、煉華が持っているのはエクスカリバーでは無いことを。

スマッシュ
「そう言えば、エクスカリバーはどうしたんだ？」

宮薙煉華
「デビルさんのバックに入れました。ボクにはこれが一番良いですから」

煉華が持っていたのはデビルの支給品『古びた剣』だった。

宮薙煉華
「骨には異常は無いですが、怪我が酷いです！」

？？？

『そんなに酷い怪我なのか？』
宮薙煉華
「はい、何でこんな怪我を・・・あれ？」
スマッシュ
「どうした？」
宮薙煉華
「何か喋りました？」
スマッシュ
「いや？喋っていないが・・・」
？？？
『我の声が聞こえるのか？』
宮薙煉華
「誰かが喋ってる・・・何処に・・・！」
煉華が見たのは古びた剣だった。
？？？
『やはり我の声が聞こえるのか！』
宮薙煉華・スマッシュ
「「剣が喋ったあ！？」」

一体、この剣の正体はなんなのか・・・。

デビル
「エンジェル、必ず仇を取ってやる。殺し合いに乗る奴は、必ず殺す！」

幼馴染みがまさかの死に思惑を隠せないデビル。それでも、エンジェルの願いを聞いたデビルは仇を取るべく、ハデスの後を付ける。

―ごめんなさい・・・私は戻れないです・・・でも私は良かったと思います、何故なら・・・―

デビル
「アクロス、エンジェルは良くやってくれた・・・次は俺が・・・」

―貴方に会えて、良かった・・・―

エンジェル（浅間りな）　死亡確認　残り３７人

再会の中での・・・（後書き）

現在の状態

スマッシュ
状態：正常
装備：マグナム（６／６）
持っている物：バック一式
思考１：殺し合いには乗らない
思考２：ハデスには気を付ける
思考３：剣が喋った！
思考４：エンジェルを埋葬する
移動：町エリアＣ－４で待機
＊ハデスが殺し合いに乗っている事を断定しました。

宮薙煉華
状態：正常
装備：古びた剣
持っている物：バック一式
思考１：友達が欲しい
思考２：気を失っている女の子（ミルの事）の看病
思考３：殺し合いに乗らない
思考４：剣が喋った！
移動：町エリアＣ－４で待機
＊ハデスが殺し合いに乗っている事を断定しました。

ミル

状態：ＨＰ４０％　ＭＰ４５％　服が破けています　気絶中
装備：なし
持っている物：バック一式、おたま、フライパン＠ＴＯＤ
思考：気絶中
移動：町エリアＣ－４で待機

デビル
状態：正常
装備：なし
持っている物：バック一式、エクスカリバー＠Ｆａｔｅ
思考１：アクロスと会い、エンジェルの言葉を伝える
思考２：ハデスを殺す
移動：町エリアＣ－４↓宮殿エリアへ
＊ハデスが殺し合いに乗っている事を断定しました。

ハデス
状態：ＨＰ６５％　ＭＰ５０％　怒り　全身に切り傷
装備：なし
持っている物：バック一式、クナイ（９／１０）
思考１：誰かを虐めて最後は殺す
思考２：武器を探す
移動：町エリアＣ－４↓宮殿エリアへ

＠エクスカリバー
Ｆａｔｅに出てくるセイバーの持っている武器、開放される言葉は
『約束された勝利の剣』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8548z/

作者とオリキャラのバトルロワイヤル

2012年1月5日22時53分発行